

二〇一一年（平成二十三年）年の東日本大震災直後。オーストラリア・パースに在住する日本人のお母さんたちが、震災と原発事故に心を痛め、三月二十

日から故郷日本のために現地でバザーを開催して、その売上金などを福島の子どもたちに届ける活動を始めました。これまで学校施設や地域のスポーツ団体など五十力以上に絵本や遊具、支援金などが届けられています。

そのつなぎ手としての役割を担う国際交流団体「子ども笑顔ザ・ビッグ・キッズ・プロジェクト」に私が参画したのは、震災発生から二年が過ぎた二〇一三年四月のことでした。不自由を強いられるわが子たちを見つめながら、福島の子どもたちの笑顔のために、

母親として何かできることはないか。そう思い悩んでいた私を、活動に導いてくれたのが、父の友人でもある、代表の林由美子さん。「できる人が、できる時に、できることを、できるだけ」。

## 民 報 サ ロ ン

そう背中を押していただきながら、わが子たちが通う学園に、パースからの支援金をお届けしました。同年十月には、日豪をつなぐ音楽ユニット「息吹（ブレス）」との交流や、千匹の折り紙コアラと応援メッセージの贈呈も。

東部シドニーは過去三十年間で最大の豪雨に見舞われ、洪水や交通網の混乱が起きています。オーストラリアには、震災発生当時の私たちと同じように、絶望や不安の中で日々を送っている人々がたくさんいるのです。

パースから福島を思い、心を寄せ、祈り、継続して活動くださる温かいご支

島でつないできた支援先の皆さんによ

### 今度は私たちが



鷺谷 恭子

援を、未来を生きる子どもたちにつなぐ役割を担えたことは、母親の一人として大きな喜びでした。

「恩返しと励まし」の活動が始まりました。会津大短期大学の井波純ゼミの学生さんは、オーストラリア大陸

の先住民、アボリジニの管楽器ディジュリドゥに、螺鈿（らでん）など会津の伝統技法で装飾を施した漆工芸作品を、「文化交流を通じて、少しでも笑

そのオーストラリアが今、気候変動による非常事態に見舞われています。

ユリドゥに、螺鈿（らでん）など会津の伝統技法で装飾を施した漆工芸作品

の温かい交流を笑顔でつないでいきます。

上の動物たちが犠牲になったとも。顔を、祈りの気持ちを届けられた

顔を、祈りの気持ちを届けられた

（郡山市富久山町、2 hours 代表）